

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日曜日の朝、妹の真奈が自転車の練習をしようと言いつけた。補助輪を外したばかりの赤い自転車は、真奈には少し大きく見えた。父は仕事だったので、私が付き合うことになった。

公園の広場で、私は荷台をつかんで後ろを走った。真奈がペダルをこぐと、自転車は右へ左へとふらついた。「放さないでね、絶対に放さないでね。」真奈は前を見たまま、何度も言った。

一時間たっても、真奈は一人では乗れなかった。私の腕はしびれ、息も切れてきた。「もう、今日はやめよう。」私がそう言うと、真奈は自転車を地面に倒して、泣きそうな顔になった。

「お姉ちゃん、すぐ乗れたんでは。」

私は答えにつまった。私が自転車に乗れるようになったのは、真奈より二つも上の年だった。その間、何度も転んで、ひざにはまだ小さな傷あとが残っている。そのことを、真奈は知らない。

「すぐなんかじゃないよ。」私はひざを見せた。「これ、自転車で転んだあと。」

真奈は目を丸くして、傷あとをのぞきこんだ。それから、黙って自転車を起こした。

もう一度、私は荷台をつかんで走った。真奈のこぐ足に、さっきまでなかった力が入っていた。ふらつきが少しずつ小さくなる。私は、そっと手を放した。真奈は気づかずに、前を向いてこぎ続けた。自転車はふらふらしながらも、広場の向こうまで進んで、ようやく止まった。

「放さないでって言ったのに。」

振り返った真奈は、怒った声で言った。でも、その顔は笑っていた。

(この問題のための書き下ろし)

問一 練習中、真奈が前を見たまま何度も言った言葉を、本文中から二十字以内で抜き出なさい。

放 さ ない で ね 、 絶 対 に 放 さ ない で ね

問二 「私は答えにつまった」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 本当のことを言うと、真奈がもっと落ちこむと思ったから。

イ 真奈は私がすぐ乗れたと思っていたが、実際は何度も転んで、長くかかったから。

ウ 自分がいつ自転車に乗れるようになったか、覚えていなかったから。

エ 真奈が泣き出したので、何を言えばよいか分からなくなったから。

イ

問三 真奈が「黙って自転車を起こした」のはなぜだと考えられますか。姉の話にふれて、四十字以内で説明しなさい。

、	姉
自	分
も	何
も	度
も	も
う	転
一	ん
度	で
が	乗
ん	れ
ば	る
ろ	う
う	に
と	な
思	っ
っ	た
た	と
か	知
ら	り
。	

問四 姉の話聞いたあと、真奈の様子はどう変わりましたか。「真奈のこぐ足に」に続く部分を、本文中から二十字以内で抜き出なさい。

さ っ き ま で な か っ た 力 が 入 っ て い た

問五 最後の場面の真奈の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 姉が約束を破ったことを、本気で怒っている。

イ 一人で乗れたうれしさを、照れかくしに怒った言い方で表している。

ウ 転ばなかったことに、ただ安心している。

エ もう自転車には乗りたくないと思っている。

イ

【中2】国語 文章問題 物語文 4 答えと解説

問一（二十点） 答え：放さないでね、絶対に放さないでね

解説：第二段落が根拠。最後の場面の「放さないでって言ったのに」は、この言葉を受けている。

問二（二十点） 答え：イ

解説：直後の「私が自転車に乗れるようになったのは、真奈より二つも上の年だった」「そのことを、真奈は知らない」が根拠。真奈の思いこみと事実が食い違っていた。

問三（二十点） 答えの例：姉も何度も転んで乗れるようになったと知り、自分ももう一度がんばろうと思ったから。

解説：真奈は「お姉ちゃんは、すぐ乗れた」と思いこみ、自分だけができないと感じていた。ひざの傷あとを見て、姉も同じように苦勞したと知ったことが、もう一度やる気持ちにつながった。

採点のポイント：① 姉も何度も転んで乗れるようになったと知った ② 自分ももう一度がんばろうと思った（二つそろって満点、一つなら半分）

問四（二十点） 答え：さっきまでなかった力が入っていた

解説：第八段落が根拠。気持ちの変化が、こぐ足の力という体の様子で表されている。

問五（二十点） 答え：イ

解説：「怒った声で言った。でも、その顔は笑っていた」が根拠。言葉と表情が食い違うことで、うれしさと照れが同時に表されている。